第８課　天地創造

【暗唱聖句】

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった」ヨハネ１：１~4

【日曜日・初めに…】初めにという言葉の持つ意味

「初めに、神は天地を創造された」（創世記1章1節）。これが聖書の初めの言葉です。この短い言葉の中に、驚くべき事実が3つ書かれています。まず、「初めに」という言葉で始まっていることからも分かる通り、この世界は無限の昔から存在していたわけではなく、「初め」があったということです。2つ目に、この世界には神が存在しておられ、この世界が始まる前からおられたということです。そして3つ目に、その神様がこの世界を想像されたということです。そして、同時にそれは、私たちがなぜここに存在しているのか。私たちはどのように出現したのか。私たちは何ものなのかということの答えが、この短い言葉の中にすべてあるのです。私たちが今ここに存在しているのは、神が私たちを創造されたからです。私たちは無から偶然に発生したのではありません。ヨハネは、「初めに言（イエス・キリスト）があった。」（ヨハネ1:1）と、創世記の「初めに」という言葉を用いて、そこにおられた神とはイエス・キリストであり、イエス・キリストは父なる神と共にこの世界が始まるときに、そこにおられたのだということを強調しています。そして、世界が始まるときに、そこにキリストがおられただけでなく、キリストを中心に、三位一体の神様によってこの世界ができたのだと力強く宣言しているのです。キリストは「初めであり、終わりである」（黙示録22:13）とあるように、キリストこそがすべてのものの始まりなのです。そして、同時にそれを終わらせる方でもあるのです。

【月曜日・天地創造の日々】1日についての考え方

聖書はこの世界には神がおられ、神がこの世界を創造されたのだという言葉で始まっています。私たちはこれを文字通り信じているわけですが、神話のように考える人もいれば、比喩やたとえ話のように考える人たちも少なくありません。しばしば問題となるのが、神様の創造の7日間を文字通りの7日間と考えない人たちが、クリスチャンの中にもいることです。創造の1日を実際にはもっと長い期間として、創造論と進化論の折衷案を見出そうとします。しかし、天地創造において使われている「日」を現わす言葉は、ヘブライ語の「ヨム」という言葉が使われていますが、他の箇所でこの「ヨム」が普通の1日以外の意味を現わす言葉として用いられていることは1度もありません。また、「ヨム」は、「夕べがあり朝があった」という言葉で定義されていますが、単数形で書かれており、数千年あるいは数万年を現わすような複数形では書かれていないことでも、やはり普通の1日を現わしていることがわかります。聖書の言葉は幼子のようにそのままに受け取るべきであって、たとえ受け入れがたくても、現代科学や常識に合わせるように解釈すべきではありません。文字通り7日間でこの世界は完成したからこそ、神様が聖別された第7の日・安息日も文字通り毎週めぐってくるのです。第一コリント15:52に、神様は「最後のラッパが鳴るとともに、たちまち一瞬のうちに」、死の体を朽ちない体に変えることができるお方なのです。

【火曜日・安息日と天地創造】安息日の意味について

「天地万物は完成された。第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された」創世記2:1～3

天地創造は6日間ではなく、7日間で完成されました。確かに、自然や生き物の創造は業は6日目までです。しかし、神様は6日目の最後に人間を創造され、すべてが完成したとは言われませんでした。この世界が完成されるために、7日目が必要だったのです。では、神様は7日目に何をなさったのでしょうか。「神は御自分の仕事を離れ、安息なさった」。そして、「第七の日を神は祝福し聖別され」ました。この特別な祝福された日を聖別されることで、天地万物は完成したのです。十戒の第4条は、神様が安息日を聖別されように、わたしたちも創造の記念として安息日を聖別することを求めています。また、エゼキエル20:20では、「わたしの安息日を聖別して、わたしとお前たちとの間のしるしとし、わたしがお前たちの神、主であることを知れ』とあります。つまり、安息日を聖別することによって、それが神様とわたしたちの間のしるしとなるのです。ちなみに、安息日のヘブライ語は「シャバット」と言いますが、これは断ち切るという意味の言葉であり、日本語の安息とは意味が違います。神様は、これまで続いてきた6日間の創造の業を、7日目に断ち切られたわけです。聖別するという言葉も、他のものと別けるという意味ですから、第7の日を他の6日間とは違う日として別けられたということです。

【水曜日・天地創造と結婚】

世界中で同性婚が認められるようになっています。これは神様が定められた夫婦の在り方とは全く相反するものです。創世記2章24節に「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる」とあるように、神様は天地創造において、男性と女性の夫婦の関係を制定されました。「二人は一体となる」とありますが、これは単に肉体的なことを言っているわけでなく、精神的にも、さらに霊的にも一体となることを意味しており、やがてイエス様と霊的に一つとなるということへと発展していきます。ただ、神様が理想とされた夫婦一体の関係も、罪が入り込んだことによって、大きくゆがめられてしまいました。夫婦の問題は同性婚だけではないということです。

【木曜日・天地創造、堕罪、十字架】

天地創造が完成してから、人間が罪を犯すまでどれくらいの時間があったのでしょうか。ほんの短い時間だったのでしょうか、それとも長い時間を経た後だったのでしょうか。聖書では、天地創造の後、すぐに蛇の誘惑の場面が出てきます。アダムとエバの間に子どもが生まれる前の出来事でもあることから、天地創造完成からそれほど長い時間を経る前に、すでに罪は発生した可能性が高いように思われます。そして、この罪の結果、死が入り込み、キリストの十字架の死に直結していきます。進化論の場合、人間の罪と死は何の関係もありませんので、当然キリストの十字架の死も意味をなさなくなります。このことを考えると、進化論を創造論の中に持ち込もうとする試みは、キリストとの関係を大きく破壊してしまう危険をはらんでいます。